

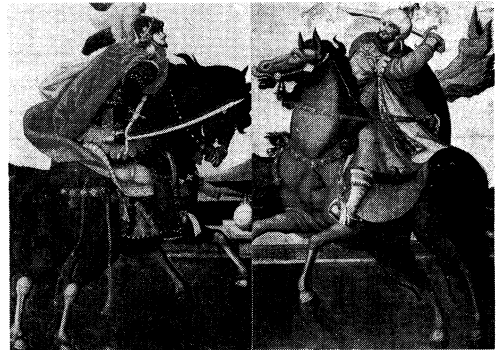
ばいに描かれたものが見あたらな
 とからも、泰西王侯騎馬図はこの種の
 作品中の代表作であるといえます。

泰西王侯騎馬図は現在神戸市立博物
 館とサントリー美術館に分蔵されてい
 ます。会津には蒲生氏の時代に持ち込
 まれたといわれますが、戊辰戦争後、
 城にあつた様々な品々と共に会津から
 流出し、その後数々の流転を経て現在
 に至っています。分けられている二つ
 の屏風がならぶのは戊辰戦争後二度目
 の事であり、しかも故郷会津での再会
 は初めての事です。神戸本の剣をふり
 かざし立ちまわる激しい動きと、サン
 トリー本の馬上にたえずむ静かさとの
 対比も見どころの一つです。二度とな
 いかも知れないこの機会に多くの方々
 に御鑑賞いただきたいものです。

(2) 松平定信周辺の画人たち

白河藩主松平定信は十一代将軍家斎
 の時政下で老中に抜てきされ、有名な
 寛政の改革を推進した人物ですが、彼
 は秀れた政治家であると同時に秀れた
 文化人でもありました。

重欧堂田善は須賀川の出身で、定信
 にその画技を認められ、世界地図の模
 刻のため当時わが国では黎明期にあつ
 た銅版画技術の習得に努め、すぐれた
 作品を数多く残しています。今回の展
 覧会では彼の油彩画の代表作である
 《七里ヶ浜図》が出品されます。この
 時期、七里ヶ浜や江の島といった画題
 は画人たちに好まれたようで、司馬江



泰西王侯騎馬図屏風(部分) (神戸市立博物館蔵)

漢や歌川広重らによつても描かれてい
 ます。

田善から油彩技法の指導を受けた会
 津藩の画人遠藤香村の《七里ヶ浜図》
 が田善の作品に並んで展示されるのも
 また見どころです。

松平定信は寛政五(一七九三)年、
 江戸湾防備の状況調査のため、伊豆方
 面の沿岸地方を巡察しましたが、その
 際谷文晁を同行させ、スケッチをさせ
 たものが《公余探勝図巻》であり、現
 在東京国立博物館が所蔵、国の重要文
 化財に指定されています。この作品の見
 どころは、スケッチという目的にも叶
 った細い線による緻密な描写と、陰影
 表現や透視図法が積極的にとり入れら
 れ見事に消化化されている点です。谷文

晁の代表作といえます。

定信のいわば文化的な事業として
 「集古十種」の編纂があります。これ
 は当時全国の寺社・諸家に存していた
 宝物類の図を集めたもので、定信はこ
 のための取材を谷文晁、巨野泉祐、僧
 白雲らに命じました。

今回出品される白雲筆《西遊行誌
 帖》は集古十種取材旅行の際のプラ
 イベートなスケッチ集で、中国・四国地
 方の景勝が描かれていますが、中には
 宝物名の覚書きなども見られ大変興味
 深いものです。その画風にはやはり遠
 近法を学んだところが感じられます。
 また先の谷文晁の公余探勝図と並んで
 白雲がそれを模写した《公余探勝之写》
 も出品されます。



泰西王侯騎馬図屏風(部分) (サントリー美術館蔵)

このように今回の展覧会では、松平
 定信の周辺で活躍した画人たちの代表
 作が一堂に会することになり、見ど
 ろの一つにあげられます。

(三) 話題の数々

泰西王侯騎馬図や松平定信周辺の画
 人の他に、いくつかの見どころをあげ
 てみます。

相馬駒焼の二代から十代までの清治
 右衛門の作品が展示されるが、今回そ
 れと共に《駒絵図巻》が出品されます。
 これは九州黒田藩の絵師石里洞秀によ
 って描かれたもので、様々なポーズの
 馬が並べられており、相馬焼絵付のテ
 キストとして田代家に代々秘蔵されて
 いたものです。

また相馬からは旗指物も出品され、
 黒地に赤丸といった大胆な意匠には、
 現代の我々も驚くような斬新な感覚と
 迫力に満ちています。

蠣崎波響は松前藩の家老であり秀れ
 た画人でありましたが、今回彼の初公
 開の美人図も展示されます。

県内の諸藩とは直接つながりはあり
 ませんが、県立博物館で新しく收藏し
 た《犬追物図屏風》も出品されます。
 これは犬追物という武家の風俗を描い
 たもので、華やかな人々の服装なども
 豊富なパリエーションをもつて描かれ
 ている興味をひくものです。

他、武家の文化を今に伝える様々な
 遺品も展示されております。